

3、天台宗の不思議・・・三面大黒天

延暦寺では三塔即ち東塔・西塔・横川にそれぞれ中心となる仏堂があり、これを「中堂」と呼んでいるが、東塔の根本中堂はその最大の仏堂であり、延暦寺の総本堂となる。本尊は薬師如来。

延暦寺を開いた伝教大師最澄が延暦7年（788）に創建した一乗止観院（いちじょうしかんいん）が元である。

東塔の根本中堂周辺の境内図は次をご覧ください。

<https://www.hieizan.or.jp/keidai/toudou>

その地図に大黒堂というのが見えるかと思います。そこに「三面大黒天」があるのである。

俗に「三面大黒天」というが、正式には「三面六臂大黒天（さんめんろっぴだいこくてん）」という誠に不思議な比叡山延暦寺の守護神がいる。

最澄は、19才のとき、山林修行のために比叡山に入るが、そのときに、大黒天と弁財天と毘沙門天を合体した比叡山延暦寺の守護神を祀る。その三神の中心が大黒天であるので、俗に「三面大黒天」というが、そういう誠に不思議な神を祀るのである。比叡山延暦寺は、根本中堂のすぐ近くに大黒堂というのがあって、三面大黒天のいわれが伝わっている。

比叡山三面大黒天縁起

千二百年の昔、当山開祖伝教大師最澄上人折、一人の仙人が現れましたので、大師は「あなたはどなたですか、そして何しに来られましたか」と尋ねられると、その仙人は「普利衆生、皆令離苦、得安穩世間之楽及涅槃楽」と法華経のご文を唱えて答えられました。これを聞いた大師は「それなら修行する多くの僧侶達の食生活と健康管理のため、比叡山の経済を守ってください」と申しますと、仙人は「毎日三千人の人々の食料を準備しましょう。それから私を拝むものには福德と寿命を与えます」と約束されましたので、大師は「この人こそ三面大黒天に違いない」と思い、早速身を浄め、一刀三拝して尊像を彫み、安置されたのがこの三面大黒天であります。

その後、豊臣秀吉がこの三面大黒天に出世を願い遂に豊太閤となったことから三面出世大黒天と尊称され、福德延寿をお授けになる大黒天として、自他安楽の道を願う人々の信仰を受け続けております。

合掌

比叡山延暦寺大黒堂



上の文章でご注意いただきたいのは、伝教大師最澄上人と書いてあるけれど、実は、上の話は最澄の19才の時の話で、彼が俗に「広野」と呼ばれていた頃の話である。もちろん、最澄は、多くの支援者や弟子とともに比叡山に入った。渡来系の大商人の支援もあったかもしれないが、多くの人びとと一緒に比叡山に入って、まずどうやって食っていくのか、

そして盗賊などに襲われないか、そういう問題が大問題であっただろうと思う。そこで最澄は、大黒天と弁財天と毘沙門天の一体になった神を祀るのである。その時の心境は、「悟りを開いた成果は、自分一人で体験したくない。全宇宙の人びと、ここにいる人びと皆と共に、無上の喜びを味わいたい。」というようなものと伝わっており、当時の最澄の決意というものを知ることができる。「全宇宙の人びと」とはよく言ったものだ。19才の若者ですよ。19才！ やはり最澄は凄いですね。